

「家がいいね」 第53号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2008. 10. 14

あなたも名を名乗りなさいよ

あいさつは大事だと思っています。まして声だけで対応しなければならぬ電話は、かける場合は「遠藤と申しますが」で始め、受ける時は知りあいと分つても、「お待たせしました。遠藤です」とまず自ら名乗る事が肝心だと思っていました。

ところが最近「どちらさまでしょうか」と相手に丁寧に名前を聞いても、無視して話のみを続ける人を何度か経験しました。不快な感情が残りました。これなら偽名セールス電話の方がマシです。

「お前に名前を言うつ必要がない」と言うのは、民に生殺与奪の特権を持つ古代の王と同じ立場です。「個人情報？」を履き違えた現代の王国に住む人が、権力を傘に人間関係を鈍くなった人でなければ、次はお互いにちゃんと名乗りましょう、ね。

家族が食べられなくなったとき・・・

「終わりよければ」いせの会が、9月28日(日)午後、いせトピアホールで市民向けのシンポジウムを開きました。およそ150名の参加になりました。自力で食べられない時が、医療・介護の大きな変わり目になります。本人や家族が後から悔いの少ない決定を、本当に出来ているでしょうか。講師の先生をまじえて、真剣な話し合いになりました。嚥下食品サンプルも殆どお持ち帰り状態になり、きっと役立つことでしょう。



まず日赤耳鼻科医師の福家智仁さんの「なぜ食べられなくなるのか」をお話です。分かりやすく飲み込む時の体の動きを示し、食べる楽しみを失わないような機能維持の道筋を説明されました。

兵庫県丹波市の特別養護老人ホーム「松寿園」の管理栄養士の梅垣佳津枝さんは、8割以上が園での静かな看取りになることと、その日まで食べられるように、「ソフト食」の例示をされました。

最後に日赤消化器科医師の大山田純さんが、食べられなくなって入院した時の対応に触れ、胃瘻

の具体的な現実をお話いただきました。

「いせの会」10月17日(金)19時いせトピアで、反省会を行います。ご参加ください。当日の資料も整理し、配布の準備中です。

寝るのは猫に かなわない

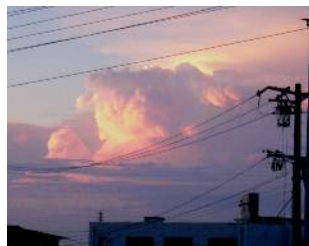
疲れた人と話していて、「寝るのが一番ですよ」と助言しますが、それが出来れば苦労はしないと表情で返されます。私自身も寝る時間が一番けずりやすいような所があり、夜更かします。

写真は我が家の「野良飼い猫」のトムくん。途中から玉無しになり、おっとり磨きがかかっています。高い所で寝るのが好きで、カーポートの透明屋根でお休みの所を下からパチリ。何度か車の上で寝込んだまま、運ばれた事もあろうだと家人は申しています。



9月の景色ですが

短いその時を外したら見られなかったと思いがします。刻々暗くなる街で、空だけが最後の一明かり。積乱雲の暗い底で稲光が走りました。雲の下はゲリラ豪雨だったかも知れません。



あとから、もう一度見たいと思っても、そのよくな時は都合よく巡ってきません。自然は太古から繰り返しても、人の経験は、その時限りです。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>